

## 大会運営上の留意事項

### 【周知徹底事項】

これは、春・夏の甲子園における大会で、大会本部および審判委員が常に心掛け、実施していることがらです。

試合直前にあれこれと短時間で説明しても、選手に十分理解されないときがあります。各都道府県大会などにおいても、下記のことを代表者会議および抽選会などで十分徹底させるようにして下さい。

#### 〔大会前に〕

1. 控え審判委員制度を確立し、試合中、規則適用上の誤りがないか、ボールカウントおよびアウトカウントは正しいか、さらにはボールデッド中か否か、また、タイムの回数確認などにも十分注意する。
2. 高校野球の趣旨を理解し、規則を守り、スピーディーな試合を展開するため、代表者会議などで次のことがらを周知徹底する。

(1) ユニフォームは正しく着用する(チームで統一すべきこととして)

- ① 帽子は真っ直ぐに、深く被る。

(頭に浅く乗せているような被り方ではない。特に投球後度々脱げる投手は改善しなければならない)

- ② 上着はズボンの中にきちんと入れる。

(ベルトが見えず、だぶついた着方はしない)

- ③ ズボンの裾の位置をチームで揃え、ストッキングの長さもチームで揃える。

(ズボンの上に被せる履き方はしないこと)

〔高校野球用具の使用制限1〕

- (2) 使用できる木製の着色バットは、全日本野球協会（BFJ）アマチュア野球規則委員会運用基準によるものとする。

〔高校野球用具の使用制限12〕

- (3) 手袋の使用は認める。

ただし、走者が手袋を手に握るだけの行為は認めない。

〔高校野球用具の使用制限13〕

- (4) 金属製バットの使用は、製品の安全基準合格を示す〈SGマーク〉付きおよび「N」、新基準バット「R」印字のあるものに限る。

（高校野球特別規則1）

- (5) 負傷箇所防護のためのテーピングを認める。

このとき、使用するテープは目立たない肌の色に近いものとし、当該選手が、担当審判委員に申し出て許可を得ることとする。

（高校野球特別規則18）

- (6) 試合をテンポ良く進めるために

- ① 攻守交代は全力疾走で行う。
- ② 攻守交代時、先頭打者、次打者およびベースコーチは、ミーティングに参加せず速やかに所定の位置につく。また、タイムブレイク時の走者についてもミーティングには参加しない。
- ③ 準備投球が終了すれば、先頭打者は速やかにバッタースボックスに入る。また、次打者も前の打者が打撃を完了すれば、速やかにバッタースボックスに入る。

- ④ 打者はみだりにバッタースボックスから出てはならない。  
(球審は、打者がベンチからのサインを見るためにバッタースボックスを外すことのないよう指導する。)
- ⑤ サインは、複雑なものはなくし、速やかに出すよう監督に協力を求める。
- ⑥ グラウンドの選手へ指示するためにタイムを要求したときは、選手をベンチに呼び寄せないで伝令を使う。また、守備側がタイムを要求したときに、打者、次打者および走者をベンチに呼び寄せることは認めない。  
なお、伝令はスピーディーに往復させる。

(高校野球特別規則15)

- ⑦ 投手は速やかに投手板上に位置する。投手板につこうとしない投手には、ただちにつくよう指示する。  
(規則5.07 (c)(2))
- ⑧ 遅延行為と見なされる投手のけん制はしない。  
(離塁していない走者へのけん制や、不必要と思われる複数回のけん制など)
- ⑨ 捕手の動作は機敏にする。  
(投手への返球、速やかなサイン、用具の着脱、バックアップや打ち合わせ後に速やかに守備位置へ戻るなど)
- ⑩ 投球を逸した捕手は、敏速にそのボールを自分で処理する。
- ⑪ 捕手のブロックサインは禁止する。また、内野手から投手へのサインは簡単にする。

- ⑫ 内野手が投手へ返球するときは、ベースライン（塁線）よりマウンド方向に近づかず、速やかに投げ返す。
- ⑬ ボール回しをするときは一回りとする。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになったときのボール回しは禁止する。なお、試合が延長戦に入ったときおよび試合が長引いたときも考慮する。
- ⑭ 投手が球審からボールを受けるとき、打者が打者席に入るとき、伝令者がファウルラインを越えるときなどの“礼”については、試合開始のときにあいさつを済ませているので不要である。
- ⑮ 保護具（エルボーガードおよびレッグガードなど）を装着した打者が走者となったとき、当該ベースコーチは保護具のみを速やかに回収する。（手袋、手首保護ガードは走者自身で管理する。）
- ⑯ 日程、時間に余裕があるときでも、スピーディーな試合進行を励行する。

(7) マナーの向上について

- ① 準備投球時、打者や次打者などがダートサークル付近に近づき、タイミングを測る行為はしない。
- ② バッターボックスのラインなどの白線を、故意に消すような行為はしない。
- ③ 走者およびベースコーチなどが、捕手のサインを見る行為、打者にコースおよび球種を伝える行為ならびに打者がベンチ

に投球のコースおよび球種を伝える行為を禁止する。このような疑いがあるときは、審判委員はタイムをかけ、当該選手および攻撃側ベンチに注意を与え、すぐに止めさせる。

- ④ 投手が捕手のサインを見たあと、投球関連動作に入れば、両チームのベンチおよびベースコーチからの声を控える（発声しない）。[捕手の動きでコースを伝える行為などを避けるため]
- ⑤ ベースコーチが、打者走者（走者）の触塁に合わせて『セーフ』のジェスチャーおよびコールをする行為はしない。
- ⑥ 投球を受けた捕手が、『ボール』をストライクに見せようとする意図でミットを動かす行為、球審のコールを待たずに自分でストライクと判断して次の行動に移ろうとする行為、球審の『ボール』の宣告に不満を示すようにしばらくミットをその場にとめおくような行為などはしない。
- ⑦ 本塁打を打った打者や得点した走者の出迎えはしない。また、攻守交代時のベンチからの出迎えはしない。
- ⑧ 喜びを誇示する派手な「ガッツポーズ」などは、相手チームへの不敬・侮辱に繋がりがねないので慎む。
- ⑨ 相手を中傷するような野次は止める。
- ⑩ グラウンドにつばを吐く行為および給水の残り水を捨てるような行為はしない。
- ⑪ 投手はロジンバッグを投手板の後方に置き、指先だけで使用し、丁寧に扱う。
- ⑫ 捕手のファウルカップは、ベンチ内で着脱する。

⑬ ベンチ内は、試合に必要なもの以外持ち込み禁止とする。

(例えば、携帯電話・パソコン・タブレット・ラジオなど)

(8) アンフェアなプレイおよびラフプレイは絶対にしない。

① 送球を妨害する意図を持って、手や足を高く上げる走塁および野手に向かってスライディングする行為。

② 打者走者が一塁への送球を妨害するために、ファウルラインの内側およびスリーフットレーンの外側を走る行為。

③ 野手（捕手）が明らかにボールを持たずに、塁線上および塁上に位置して走者の走路をふさぐ行為。(捕手のブロック、本塁のプレイが行われず走者が得点する際に捕手が本塁をまたぐ行為など)。

④ 野手（捕手）がボールを明らかに保持しているとき、落球を誘うために乱暴に接触する行為。

⑤ 盗塁を助けるために、捕手の送球直前のスイングおよび故意にバッタースボックスから前に出る行為。

⑥ ヒットバイピッチ（死球）を得るために、投球を避けない打者の行為。

(投球を避ける動作のないものおよびエルボーガード等を投球に対して突き出す行為)

(9) 規則上特に注意すべき事項について

① 臨時代走者については、高校野球特別規則の趣旨を理解し徹底する。  
(高校野球特別規則11)

② 部長、監督および選手は、グラウンド内ではスタンドの観衆

に話しかけることは絶対にしない。(4.06)

- ③ 捕手は、ホームプレートの直後に位置しなければならない。  
(5.02 (a))

- ④ 投手に基本的なルールを徹底する。(投手板へのつき方、自由な足の位置、自由な足の踏み出し、軸足の移動とはずし方、投球動作・ストレッチの中断など)  
(5.07)

(10) 危険防止のため、次のことを徹底する。

- ① 鉄棒、バットリング、滑り止めスプレーは、ベンチに持ち込まない。
- ② 打者、走者およびベースコーチならびにグラウンド内にいるボールパーソンおよびバットボーイは、必ず両耳付きヘルメットを着用する。  
(高校野球特別規則3)
- ③ 試合中にヒットバイピッチ(死球)などで大きな衝撃を受けたヘルメットは使用しない。
- ④ グラウンド内にいる全ての選手(特に次打者、ブルペンの選手)は、投手が投手板に位置したならばプレイに注目する。
- ⑤ 捕手のヘルメットおよびマスクは、〈SGマーク〉のシールが貼り付けられているものを使用する。また捕手のファウルカップの着用を義務づける。
- ⑥ 試合中、練習中を問わず、捕手が座って投球を受けるときは(ブルペンも含む)、必ず捕手用具一式を着用する。
- ⑦ 投手は準備投球終了時に、捕手が二塁ベースに送球するボールに注視する。

- ⑧ 試合前に内野ノックする際、本塁ベース付近から並行して内野手の頭越しに外野ノックをすることを禁止する。  
一塁または三塁後方のファウルテリトリーからのみとする。

### 〔試合前に〕

1. 試合をする両チームは、試合開始の定められた時刻に、所定の用紙にオーダーを記入し、責任教師および主将が大会本部に提出する。  
このとき、審判委員が立ち会い、ジャンケンで攻守を決める。
2. 攻守を決めたあと、いま一度審判委員から代表者会議などで注意したことおよび大会ごとに設けたテーマなどの中から、特に重点的な項目を説明し、各選手が必ず厳守するよう伝える。
3. 試合前に担当審判委員は、両チームのバットおよび打者用ヘルメット、捕手用の用具一式（ファウルカップを含む）を点検する。
  - (1) バットの点検
    - ① 高校野球で使用できるバットであるか確認する。（使用できるバットについては、高校野球特別規則 1 および高校野球用具の使用制限<sup>12</sup>参照）
    - ② 亀裂、ヒビ割れ、曲がり、ひずみなどがいないかを目視および感触で確認する。
    - ③ 先端、テーパ部、グリップ部分の異常の有無などを全般にわたって確認する。
  - (2) ヘルメットの点検は、亀裂がないか、内側の緩衝材は大丈夫か、〈SGマーク〉のシールが貼り付けられているかなどを確認する。



金属製バットおよびヘルメットに異常のあるものを見つけたときは、試合に使用できないことを責任教師に伝え、大会本部で預かる。なお、試合終了後の返却時に、以後使用してはならない旨を伝える。

4. 担当審判委員相互で、分担範囲、カバーリングおよびサインなどの打ち合わせを必ず行う。
5. 球審および二塁塁審は、インジケーターを必ず携帯する。
6. 選手交代が複雑なときなどに備えて、本部への通告を正確にするため、球審はメモなどの用意をしておくことが望ましい。

選手交代の通告の順序は、まず退く選手を通告し、次に新たに入る選手および守備位置の変更のある選手を通告する。

#### 〔試合中に〕

1. 審判委員はグラウンドでは常にかけ足で、機敏に行動する。
2. 攻守交代時の審判委員の分担
  - (1) 球審は交代選手の通告などの任務がない限り、次打者席付近に近づき、速やかに守備位置へ向かうよう指導するとともに、攻撃側の先頭打者およびベースコーチにも気を配る。
  - (2) 守備につくベンチ側の塁審は、コーチスボックス付近で「さあ行こう」などの励ましの声をかけ、選手を全力疾走で守備につくよう指導する。ただし、極端に追い立てることのないよう留意する。
  - (3) 攻撃に移るベンチ側の塁審は、その間に投手板を掃くこととす

る。また、ボールが投手板付近に置かれているか、ロジンバッグが投手板の後方に置かれているか確認する。

- (4) 特に、一・三塁塁審は、ベースコーチに速やかに所定の位置につくよう指導する。

プレイの流れで、一・三塁塁審ができない場合は、二塁塁審がカバーするよう心掛ける。※(2)～(4)項共通

3. ファウルボールなどのあと、球審が新しいボールを渡すときは、できる限り投手に直接送球する。
4. ベンチなどから高校生らしくない野次および動作があったとき、ならびに服装が不適切なとき（責任教師、監督を含む）は、攻守交代時に責任教師に注意する。
5. ラフプレイおよびマナーの悪い行為があったときは、その都度注意するとともに、場合によっては、攻守交代時および試合終了時にも責任教師（必要に応じて当該選手にも）に注意する。
6. チームおよび観衆に理解しにくい事態が発生したときは、担当審判委員が協議して、当該チームへ説明するとともに、場内放送を通じて観衆にも説明し、納得させる。

〔巻頭の「トラブル防止について」参照〕

7. 臨時代走者適用時の役割分担について

- (1) 球審……本部に臨時代走者を適用する旨の報告および代走者を通告する。また、状況によっては、医師等の処置および診断を仰ぐ場合もある。

- (2) 塁審……① 攻撃側に位置する塁審は、そのベンチに行き、通

告された臨時代走者を当該塁へ促す。

- ② 守備側に位置する塁審は、そのベンチに行き、臨時代走者を適用する旨を監督に説明する。
- ③ 二塁塁審は、臨時代走者の適用をスコアボードで確認するとともに、ただちに試合再開できるよう守備側野手の行動に留意する。

#### 8. タイブレイク時の役割分担について

- (1) 球審……打者、一塁走者、二塁走者を本部（控審判委員）と確認する。
- (2) 塁審……① 一塁走者は、一塁塁審が所定の位置まで誘導し、本部に走者の背番号が分かるように走者に指示する。  
② 二塁走者は、二塁塁審（三塁側ベンチの場合は三塁塁審）が所定の位置まで誘導し、本部に走者の背番号が分かるように走者に指示する。

走者は、プレイの開始まで（内野の守備練習が終わるまで）は安全のため、ベースから離れた場所で待機させる。

#### 〔試合終了後に〕

- 1. 審判委員は、チームが応援団へのあいさつを済ませたあとは、速やかに用具などをまとめさせ、ベンチ内の整頓を確認後、ベンチを出るよう指導し、最後まで見届けた上で退場する。

2. 今終わった試合に関して、担当審判委員は相互に位置、プレイなどについて必ずミーティングを行い、次の担当試合にいかすよう心掛ける。
3. 試合中にトラブルが発生し、試合後に報道関係者などから質問を受けると予想される時は、グラウンド退去後、ただちに担当審判委員全員（必要により控え審判委員も加わる）で、事態に対する結論および統一した見解を取りまとめる。

なお、説明を要するとき、担当審判委員の代表1名が行い、責任者が必ず立ち会う。